

オフピーク通勤の結果について

1 オフピーク通勤の概要

〈実施概要〉

- ・ 鉄道の混雑緩和に向けて、鉄道路線を利用する市職員を対象に、時差勤務等によるオフピーク通勤を実施した。
- ・ 市内の経済団体等の協力をいただきながら、市内企業や従業員等に働きかけを行った。
- ・ 九都県市で連携し、東京都が進めている「時差 Biz」を後援することで、都内を中心とする民間企業や、都心方面へ通勤する市民等へも普及啓発を行った。

〈実施期間〉 平成30年7月9日(月)～8月10日(金) (「時差 Biz」期間にあわせて実施)

2 参加状況 (市職員)

対象者数 8,044人 参加者数 3,300人

延べ人数 22,426人(1日あたり平均参加人数 約934人)

※ 南武線最混雑区間(武蔵中原駅→武蔵小杉駅)の平均参加人数は約338人

〈時差勤務パターンの選択割合〉(定時:8:30～17:15)

①7時30分～16時15分	32.7%	④9時30分～18時15分	13.0%
②8時00分～16時45分	32.1%	⑤10時00分～18時45分	6.5%
③9時00分～17時45分	15.7%		

3 オフピーク通勤の実施アンケート結果 (3,270人から回答)

(1) 電車内等の混雑の実感

電車内が『いつもより空いている』又は『やや空いている』と実感した割合

- ・ 8時30分より早い勤務 約45%
- ・ 8時30分より遅い勤務 約68%
- ・ 8時30分勤務 約22%

※ JR 武蔵小杉駅構内の混雑状況については、通常の8時30分に勤務した職員の約17%が“いつもより 空いている”又は“やや空いている”と実感

(2) 今後の実施について

- ・ 『利用したいと思う』又は『どちらかといえば利用したいと思う』と回答 約77%
【主な理由】「自分の仕事のペースで勤務時間を合わせられる」「生活リズムに合わせて勤務時間が選択できる」「通勤混雑が避けられる」が多くあった。
- ・ 『利用したいと思わない』又は『どちらかといえば利用したいと思わない』と回答 約23%
【主な理由】「勤務時間が固定されている方が仕事しやすい」「生活リズムを一定にしたい」「業務に支障が生じる恐れがある」が多くあった。

(3) 時差勤務以外で実施したい内容

- ・ 「特になし」が最も多かったが、その他として「サテライトオフィスの活用」、「在宅勤務」「テレワーク」が多くあった。

4 取組効果（市職員）

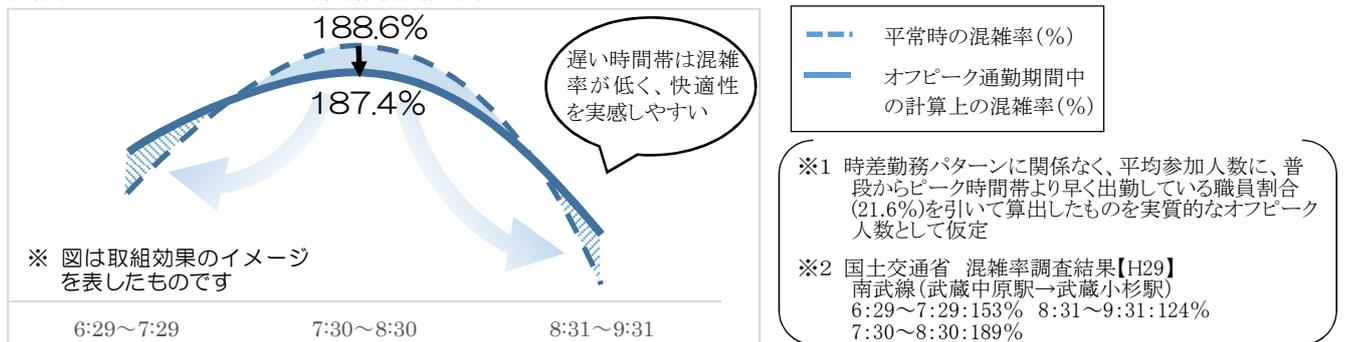
（1）参加状況からみえる効果

- ・対象路線と実施期間を拡大したことにより、昨年と比べ**参加者数が約2.7倍、平均参加人数も約1.4倍**となり、取組の趣旨や意義の理解が広まった。
 - ・南武線最混雑区間利用者のうち、ピークをずらした人数（**実質的なオフピーク人数**）は、1日あたり平均 **約265人**（＝約338人×約78.4%） ※1
- ⇒ **計算上の効果 混雑率約1.2ポイント低減（188.6%→187.4%）** ※2

（2）アンケート結果からみえる効果

- ・オフピーク通勤で時間をずらしたことにより、特に時差勤務パターン③～⑤の**遅い時間帯**では**7割近くの職員が、一定程度空いていることを実感**している。

混雑率ピークシフトイメージ（南武線最混雑区間）



5 取組の考察

- ・南武線最混雑区間の混雑率が計算上は約1.2ポイント低減したが、ピーク時間帯の効果を実感した職員が少数であったことから、**引き続き本市職員の積極的な活用を促すとともに、民間企業なども含めて、より多くの参加を働きかけていく必要がある。**
- ・国の混雑率調査結果によると、ピーク時間帯より遅い時間帯の混雑率は、早い時間帯に比べ低い傾向が見受けられる。アンケートにおいても**8時30分より遅い時間帯の快適性が実感しやすい**結果となっているが、6割以上が早い時間帯を選択していることから、今後、**遅い時間帯の取得割合向上に向けた方策の検討が必要である。**
- ・制度を活用したくない理由として、生活リズムを一定にしたい、業務への影響を心配する意見が多かったことから、引き続き、**多様な働き方を認める風土醸成やそれを踏まえたより柔軟な制度の検討が必要である。**

6 今後の方向性

（1）他都市とも連携し、民間企業等を含めたオフピーク通勤の一層の機運向上

- ・効果拡大に向けて、引き続き市職員をはじめ、市内の企業等にも参加を働き掛ける。
- ・東京都が進める「時差 Biz」と引き続き連携を図ること等により、オフピーク通勤の機運を高める。

（2）時差勤務パターン選択割合の平準化

- ・ピーク時間帯前後の混雑状況について、情報発信を行う等により、遅い時間帯の取得割合向上を図る。

（3）市の働き方・仕事の進め方改革と連携した取組推進

- ・オフピーク通勤関連制度(時差勤務、サテライトオフィス等)の検討・推進

川崎市まちづくり局交通政策室【オフピーク通勤の取組全般】

担当 久木田 電話 044-200-2760

川崎市総務企画局労務課【時差勤務の運用について】

担当 峰岸 電話 044-200-2145